

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：アド・アール株式会社

定 価：一部 30 円



2017年8月20日

第 411 号

意思決定支援と最善の利益

つばさ静岡

施設長 山倉慎二

いか」という後悔ばかりが目につきま
す。自分の人生でさえ最善であったかど
うかはわからないのに、いやむしろ最善
であったとはとても思えないのに、他人
の最善などを決めることなどが果たし
てできるものなのでしょうか。

昨今、障害者の意思決定支援の在り
方が重要な取り組みとして位置づけら
れています。障害者総合支援法に規定さ
れ、一昨年にはガイドラインも作成され
ました。障害者の意思を尊重した質の高
いサービスが提供されることを目的と
したものです。しかしながら重症心身障
害児者のほとんどは自分の言葉すらな
く、意思の決定や意思の確認が困難な
方ばかりです。そこで自ら意思を決定す
ることが困難な方の場合には、本人の意
思確認を最大限に行うことを前提に、
家族や事業者、成年後見人等の本人を
よく知る関係者による「最善の利益」の
検討がなされなければならないとされ
ています。では、「最善の利益」とは何で
しょうか。

「最善」を辞書で調べると「一番よいこ
と」「最も適切なこと」とありますが、そ
もそも人生に於いて「最善」などといっ
ものがあるのでしょうか。誰が何をもち
て最善などと判断するのでしょうか。自
分の人生を振り返ってみても、その道は
自分で選んできたにもかかわらず、「あ
の時ああすればよかったんじゃないか」
とか、「あの選択は間違っていたんじゃないか」

命に関わる場合はもっと深刻です。例
えば、進行がんの診断がなされたとき、
抗がん剤治療などにより徹底的にガン
と闘うのと、何も治療をせずに残された
人生を天にまかせて過ごすのでは、ど
ちらが最善だと言えるでしょうか。抗が
ん剤治療が非常によく効いて何年も寿
命が延びるかもしれませんが、しかしその
反対に、積極的な治療を選んだがため
に強い副作用に苛まれ、苦しんだ末に短
命で終わってしまうこともあります。治
療をしなかった場合でも、さして苦しむ
こともなく、非常に穏やかな人生を送れ
る可能性があり、治療するよりもかえっ
て長く生きることが十分考えられます。

どちらかの道を選ばなければならな
いわけですが、人生をやり直すことなど
できない以上、選んだ道がよかったのか
どうかは結果論でしかないのではない
でしょうか。つまり、「最善」というのは、
結果はどうであれ、その結果を全面的
に受け入れて、「これが最善だったんだ」
と自ら言い聞かせて信じ込む以外には
ないのではないのでしょうか。以前はその
ように考えていたため私はこの「最善の
利益」という言葉が単なるきれいなことを

言っているだけのように聞こえ、あまり
好きではありませんでした。

重症児者施設で働いていると、ときと
して非常に重大な選択をしなければなら
ない局面に遭遇することがあります。
その都度、ご家族を中心として施設職
員を交えた話し合いを持つことになり
ますが、必ずしも全員が納得できるよ
うな結論には至らないこともあります。
しかしそこに集まって考える人たちに共
通しているのは、皆それぞれにその方
のことを思い、「善意」を持って真摯に考
えているうちに、「最善」の「善」はこの
「善意」の「善」を意味しているのではな
いかと思うようになりました。

親や兄弟、医師や看護師、介護者な
ど、その方に関わる「善意」をもった人
たちが真摯に話し合い、考え抜いて導き出
した答えの中には、きつと「最善」があり
ます。「最善」とは結果に左右されること
なく、その悩みぬく過程にあるのだと思
います。そういう視点に立てば、結果に
ひるむことなく、胸を張ってその方の「最
善の利益」を考えることができるのでし
ょう。

そしてそこで選り抜かれた思いに向
き合い、その方に精一杯寄り添いながら
結果を受け止めていくことが「最善の利
益」であり、意思決定支援として大切な
ことなのだと思います。

小羊学園とともに描く

「地域に根ざす市民福祉のビジョン」

7月22日、小羊学園を支える会の総会に続いて、標題に掲げた演題で稲松理事長による講演会が開催された。日頃より小羊学園を支えてくたさる皆様に、小羊学園の現状を知っていただき、小羊学園の諸施設諸事業が何を目標にして運営されているのか、知っていただく機会にしたいというのが目的であった。講演会当日の参加者は少なかったが、理事長がそこで伝えたかったことを、あらためて記事にしてみようことにした。

小羊学園のあゆみ

小羊学園は昨年度創立50周年をお祝いした。1966年に開園した小羊学園は、障がい児の入所施設だった。そこから事業展開して、施設の数が増えていった。私は、事業展開には、「量的事業展開」と「質的事业展開」があると思っている。小羊学園においてもそれぞれの要素はあるが、どちらかというとな後者の「質的事业展開」が中心だったのでないかと思っている。

社会福祉の働きは、最初、地域の中のニードから始まる。聖隷福祉事業団も

その出発は、地域の中で居場所のない一人の結核患者を受け入れ介護したところからはじまっている。その働きの意義が理解されるとそこに支援する人たちが出てきて、やがて社会的に認めら得る行政によってそれが制度として整えられていく。さらに、それらの事業の対象となる人たちが多量に、事業量の拡大が求められる。高齢者施設が足りないとなれば、高齢者支援施設があちこちに開設され、保育施設が足りず「待機児童」が問題になると、保育所が増設される。これを「量的事業展開」という。多くの社会福祉法人が、この量的ニードの拡大に応えて事業展開された。児童福祉施設を運営する法人が特別養護老人ホームを開設したり、高齢者支援施設を経営する法人が、保育所を開設したりする。

最近では、第2種社会福祉事業は、社会福祉法人でなくても開設できるために、NPO法人や会社組織で、社会福祉事業に取り組むところもにわかが増えてきている。

しかし、小羊学園は、障がい児の仕事から障がい者の支援に広がり、障がい児も通学できるようになったあとは、地域で生活する人たちの支援に取り組んで

きた。なおかつ、入所する人たちのより豊かな生活のあり方を考えて支援のあり方を改善に取り組んできた。これらの実践の現場から気づかされた支援の改善のために新しい取り組みをすることが「質的事业展開」ではないかと思っっている。大きな集団での入所施設を「小舎制」「ユニット化」にチャレンジしたり、日中は他の場所に移動してデイプログラムを提供できるよう「職住分離」を目指したりしてきた。

がより明確に求められることになったと理解しているが、社会福祉の仕事が公益性の高い仕事であるならば、事業主体が社会福祉法人であろうがなくなるが、同じような姿勢は求められるべきだと思っっている。もちろん、量的なニードの拡大に配慮することも必要だろうが、むしろ地域の中の課題を捉え、弱い立場の人たちの声にならないニードに気づいて、支援の質を改善していく努力を怠つてはならないのだと思っっている。

創立の精神を今の時代に

私が理事長になって、理念の継承のために、小羊学園の名称の典故である聖書の「失われた一匹の羊」のたとえ話を繰り返し伝えてきた。別の言い方をするとそれしかしてこなかったのかも知れない。あとは、現場で働く職員たちが、それぞれの施設利用者の生活改善のために新しいアイデアを出し、あるいは必要と思われる新たな事業にチャレンジし、事業が広がってきた。現場で働く人たちの意欲とアイデアによって事業展開してきた。これが、創立の頃から受け継がれた「現場主義」と言えるのではないかと思っっている。だからこれまでは、行政の求めに応じて経営者主導で、保育事業や高齢者福祉に広がることはなかった。



問われる「社会福祉法人」

昨年、社会福祉法が改正され、社会福祉法人のあり方が大きく変更された。経営のための組織強化、透明性、公益性

「私たちの願い」と「これから」

理念として聖書のたとえ話を挙げるだけではいかにもはつきりしないので、法人のパンフレットにおいて、「わたしたちの願い」として、障がい児・者福祉分野をフィールドとすることを掲げた。あわせて、他の領域との連携・協働を通して、地域での役割を果たすことを、パンフレットには「これから」という項目で掲載した。これは、別の見方をすると、子どもたちや高齢者など、他の分野のニードもあるのに、自分たちが障がい児・者福祉に特化して事業に取り組みことの違いであるが、しかし、実際はできるだけそのようにしたいと願ってきた。



南区の事業で学んだこと

小羊学園(児童寮・青年寮)を新しい発想の障がい児者施設【三方原スクエア】として改築することができた。その後私は7年間、理事長を兼務しつつ、三

方原スクエアから浜松市内で一番離れた南区での事業の責任者として赴任した。具体的には、障がい者デイサービス(マルカート)、障がい児放課後支援(ドルチェ)と、障がい者相談支援(アグネスみなみ)の管理者という立場で、毎日通所してくる利用者のご家族の生活のことを、入所施設からは離れた地域において、どのように取り組めばよいのかを考えてきた。

当初、必要だと思って目標に挙げている南区にグループホームを設置することは、三回チャレンジしたが、あれこれと問題にぶつかり、結局、目に見える事業にすることはできなかった。しかし、浜松福祉協働センターアンサンブル江之島という浜松市の建物において、他法人の職員とも交流し、一緒に課題に取り組むことが経験できたし、隣接する南区役所と連携し、南区障害者自立支援連絡会の運営や、委託相談のモデル事業に取り組むことができたことは、これからの市民のニードに包括的に取り組むための社会福祉の実践を考えていくために、貴重な学びの機会となった。



支える会活動に期待すること

小羊学園を支える会は、創立者の山浦先生の掲げる思想、事業姿勢を信頼し、小羊学園の実践の窮状を理解してくださる方たちの支援が集められたものとして継承されてきている。いわゆる「小羊学園」の応援団であり、さまざまに支えられてきた。しかし、小羊学園の事業が、施設の運営にとどまらず、地域のコミュニティの再生をめざし、法人の枠を超えた連携と協働による実践をめざしていこうとするとき、支援者の皆さまも、私たちの目指すべき実践への参画者であり、パートナーになっていただかなければならないのだと思っていた。



今後、すべきこととできること

そのために、私たちは何をすべきなのだろうか、あるいは何ができるのだろうか。これまでも、そうであったように、実際にその働きを前へ進めてくれるのは、日々の生活の中で、支援を必要とする人たちに接してくれる人たちである。それは、「職員」と呼ばれる人だけではないかも知れない。だから、その「現場」で課題に寄り添ってくれる人たちに対して、「理念」を語り続けていきたい。「一匹の羊のたとえ話」は最後に「このように小さい者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない」と締めくくられている。聖書的な表現を避けていうならば、どんなに小さい弱い存在の人であっても、命の尊厳ある一人として大切にされる社会、それが私たちのめざすべき社会なのだ」ということではないだろうか。

昨年からは理事長専任となり、職員として最前線で働く立場ではなくなりましたが、理念や実践のヒントをお話することで、お役に立つのであれば、喜んでお世話をしたいと思っています。どうぞ、これからも小羊学園を宜しく願っています。

理事長 稲松義人

タオル・石鹸等ご寄贈いただく

三方原スクエア

7月24日、浜松市豊岡町にある理美容製品卸業「Nest」様にご来訪下さり、たくさんのタオルや石鹸類を寄贈いただきました。当日は代表取締役の渥美純矢様はじめ丸井涼輔様とお子様4名がお見えになられ、出水施設長と利用者に手渡しされ、施設からは感謝状が贈られました。Nest様は理美容関係の取引先やお客様から寄せられたタオル類を集め、有効活用してほしいと生活施設にご寄贈下さいました。

こうした機会をきっかけに、地域の輪が更に広がることを願ってやみません。



7月25日に、大相撲片男波部屋の力士「玉金剛」さんが来所され、ちゃんこ鍋を作り、利用者・職員に振舞ってくださいました。その後は記念撮影も行われ、大きなお相撲さんにみんな大興奮でした。

ちゃんこ鍋、美味しかったよ
支援センターわかぎ

フェスタつばさ 2017

日 時：平成 29 年 9 月 2 4 日 (日)

10:30~15:00

ところ：つばさ静岡 正面駐車場
静岡市葵区城北 117

催し物：cheer up パフォーマンス / 和太鼓
利用者によるステージ発表・飲食ブース
【静岡市内の名店が出店します】

◇問合せ：つばさ静岡 担当：片山
TEL：054-249-2830

引き続き探しています！

浜松中区・南区の

土地情報下さい

小羊学園では、近い将来に浜松市中・南エリアの拠点整備を検討し始めたところです。しかし、施設整備の財源が厳しい現状ですので、土地を購入できるゆとりがありません。読者の方やお知り合いで、休閑地等を無償で貸与くださる方がおられましたら、ぜひご紹介下さい。

・候補地

浜松市中区・南区

・土地条件

500坪〜1000坪程度

宅地／農地／雑種地問わず

隣接して6m道路

電線・水道管近くにあれば◎

・貸与条件

可能であれば無償

貸与期間、固定資産税免除

建物借入金償還後に土地買い上げ交渉可能

○窓口

小羊学園法人本部 稲松・池谷
053-584-3337



編集後記

先日、施設の全体会議内の研修報告で、同じ言葉でも人によって捉え方・伝わり方が違うという内容が報告された。30人いた職員のイメージは3パターン分かれた。言葉を発する立場として、伝えることの難しさを実感。

そんな折、再び北朝鮮情勢が緊迫している。互いのトップの口激がエスカレートしている中で、捉え方の違いで戦闘開始となってはならないと願うばかり。

連日の猛暑でぐったり…しつかりとした食事と適度な水分で、残暑を乗り越えよう。

(F)

小羊学園を支える会

2017年度 寄付金報告

7月 受付分 311,359円 (14件)
累計 899,329円 (58件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局 (鈴木)
小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337